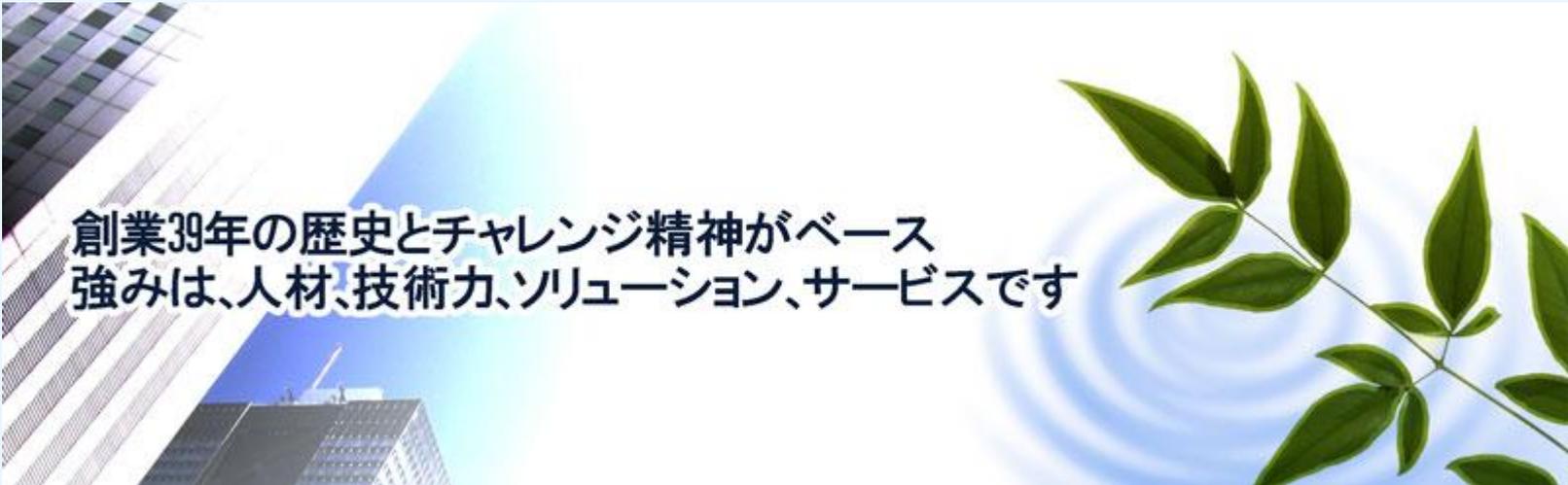


# 第39期(2010年3月期) 決算説明会資料



創業39年の歴史とチャレンジ精神がベース  
強みは、人材、技術力、ソリューション、サービスです

2010年5月28日  
日本ラッド株式会社



# 会社概要



設立

1971年6月7日

上場

1999年11月9日 (JASDAQ 4736)

事業内容

システム設計・開発、ハードウェア開発・販売  
パッケージソリューション開発・販売

代表者

代表取締役会長 大塚 隆一

決算期

3月

資本金

7億7,283万円

発行株式数

4,505,390株

従業員数

単体:375名  
連結:389名(2010年3月31日現在)

事業所一覧

本社(東京都新宿区:写真)、大阪、名古屋、  
金沢、松本、目黒、横浜  
(2010年3月31日現在)



## プロダクトマーケティング事業

パッケージプロダクトの自社開発・販売および海外製プロダクトの日本化と国内販売

- ◆ 多次元解析ツールIBM Cognos TM-1の販売・導入およびカスタマイジング。300を超える納入実績
- ◆ ワークフローをサポートする文書管理システムBaltanおよびその応用としての施工管理システムBaltan-Hの開発・販売
- ◆ 過疎地向けオンデマンド交通システムGTRSの開発・販売
- ◆ インターネット上で映像や動画などの大容量コンテンツの高速配信ソリューション

## ビジネスシステム事業

大小さまざまな企業基幹系システムの開発・構築。金融・公共系システムの開発・構築

- ◆ さまざまな業種業態向け販売管理システム
- ◆ 自動倉庫制御を含めたトータル倉庫システムおよび物流系システムの開発・構築
- ◆ サプライチェーンマネジメントシステムおよび在庫削減のための補充発注システムの開発・構築
- ◆ 多様な就労形態をサポートし、タイムカードレコーダと自動連携する就労管理システムの開発・構築

## システムソリューション事業

ハードウェアを起点としたシステム・プロダクトの開発・販売

- ◆ 消防車、救急車、パトカーなどの特殊車両向け車載端末(カーナビ)の開発・導入。全国8000台の消防車のうち4000台に納入
- ◆ 病院向け再来受付端末、待受け表示装置などの医療事務用端末サブシステムの開発・導入。350を超える病院に納入
- ◆ 医療機関向け検査・検診システムの開発・導入
- ◆ ハードウェアへの組み込み系システムの開発・納品

## データセンター/ネットワークコンピューティング事業

高電力効率(PUE:1.07)データセンターによる他社にない廉価なサービスの提供。全事業部門での共通設備

- ◆ e-コマース、グループウェアなどの専用ホスティングサービス
- ◆ コンテンツ共有型の新しいデジタルサイネージ(電子看板)サービス

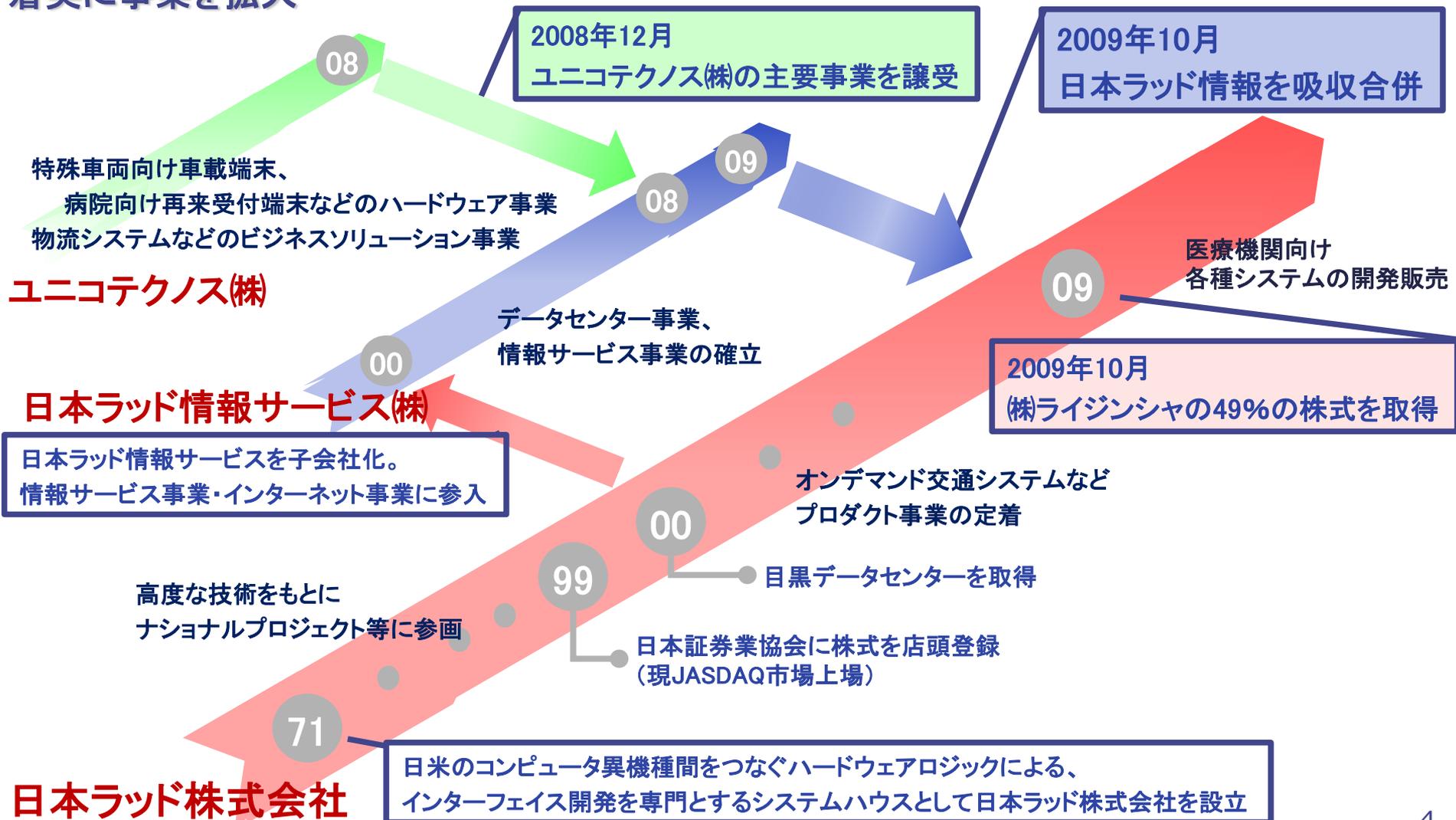
## 地域サポート事業

ラッドが提供するシステム技術や各種サービスの地域ごとでのサポート拠点

- ◆ 中部事業部(名古屋・金沢)、西日本事業部(大阪・岡山)

# 日本ラッドグループ再編

39年間一貫して高い技術にチャレンジしながら  
M&Aを含めたアライアンス構築により  
着実に事業を拡大



# クラウド型データセンター事業への参入・強化



データセンター利用ニーズの高まりの一方でデータセンターでの電力消費が問題になってきています。日本ラッドはこれに着目し、自然吸気を利用した排熱型冷却技術を確立し、データセンター設備全体の軽量化を実現。ランニングコストを大きく削減し、お客様に圧倒的な低価格サービスをご提供します。

**PUE=1.07を実現**

PUE:

Power Usage Effectiveness  
サーバが必要とする電力に  
対する実消費電力比率



日本初の免震構造ビル



日本ラッドの <sup>1</sup>消費電力 <sup>2</sup> PUE=1.07

最新空調方式  
**新型データセンターがすごい!**

違いは技術と人間力。

© PUE / Power Usage Effectiveness  
PUEはデータセンターのエネルギー効率を測定する指標で、1.07は業界最良の水準と見なされています。

圧倒的廉価な  
仮想専用サーバ

豊富なSaaSメニュー

安全なハウジング  
サービス

コンテンツ共有型  
デジタルサイネージ

最先端の仮想化技術による高効率サーバ共有を実現と低ランニングコストにより、「月額450円／サーバ」を提供  
お客様のご利用ニーズに適したサービス、課金体系のご提供

お客様の緊急なご利用に対しても、サーバ資源を柔軟にご提供。ご利用の従量制に合わせた課金体系

画像・文字情報のみならず動画・映像情報などの大容量コンテンツの高速配信インフラのご提供

# 商材紹介



平成21年5月、アセトン(株)のBPMパッケージ「AgilePointBPMS」と(株)サイバーテックのXMLデータベースNeoCoreXMS」との連携による文書管理ソリューション「Baltan」の販売を開始いたしました。



## マルチドキュメント管理ソリューション「Baltan」

製造業や設備工事業では、製品・工事仕様や図面等のドキュメント管理が部門毎に行われているため、部門間の情報共有が課題となっています。「Baltan」は、業務プロセス毎のワークフローとドキュメント処理を関連付けることにより、部門をまたがるドキュメント管理を可能とし、社内の情報共有、コミュニケーションの活性化を実現するソリューションです。平成21年度中は、当社とアセトン社およびサイバーテック社との3社共催により、製造業、設備工事業の情報企画、情報管理、ISO 文書管理、全社インフラ管理などのご担当者様を対象とした実践セミナーを展開し、「業務プロセスとドキュメントがリンクしていないため業務効率が低下している」「ドキュメントの承認プロセスが複雑化・多様化し、既存の文書管理システムでは対応できない」などの課題をお持ちの参加者にご好評をいただいております。

平成21年12月15日、APANI NETWORKS (本社: 米国カリフォルニア州)と同社製セキュリティパッケージ「Apani EpiForce®」を含むソリューションを提供するパートナーとして、日本国内ストラテジックディストリビュータ契約を締結いたしました。



## 「Apani EpiForce®」の国内販売開始

ISMSやJ-SOX対策などによりオフィス内ネットワークセキュリティはますます複雑化、高度化しており、設備投資コストもさることながら運用管理に大変なコストがかかる時代となっています。

「Apani EpiForce®」は、シンプルでフラットなLAN上に高度な端末認証、端末間暗号化、VLANなどを自由自在に構築し、グラフィカルな管理画面で端末ごとのセキュリティの設定管理ができるソフトウェア・ソリューションで、欧米の大手金融機関、公共機関を中心に、世界で50万台以上の端末に導入されています。当社は、日本における正規代理店およびシステムインテグレーションパートナーとして、Apani EpiForce®の国内企業への導入を支援しております。

平成21年11月、コンテンツ企画・制作会社向けに大容量コンテンツサーバをバンドルし専用高性能セットトップボックスを用いたフルハイビジョン対応のクラウド・デジタルサイネージサービス(InfoBroad® ASP)を開始いたしました。



クラウド・デジタルサイネージ  
InfoBroad® ASP

## クラウド・デジタルサイネージ「InfoBroad®ASP」

デジタルサイネージとは、屋外や店頭、交通機関など一般家庭以外の場所においてディスプレイなどの電子的な表示機器を使って情報を発信するもので「時間と場所を特定できる唯一のメディア」として認知が広がっております。また、その特徴からターゲット・マーケティングのためのメディアとして費用対効果が高い広告・販促手段になり得るものとして注目を集め急速に普及が広がっております。

当社では、表示機器へ映像等を配信するためのサーバ・ストレージ・メモリなどを、クラウド・デジタルサイネージとして自社運営のデータセンターにて提供することで、初期導入費用・月額使用料の運用コストを極めて低価格で提供することが可能となりました。

これにより、コスト面の問題で導入やクライアントへの提案に踏み切れていなかった多くの映像配信コンテンツ企画・制作会社のビジネスチャンスを広げ、デジタルサイネージの裾野を広げることに貢献いたします。

## 「デマンド交通システム」累計50システムを納入

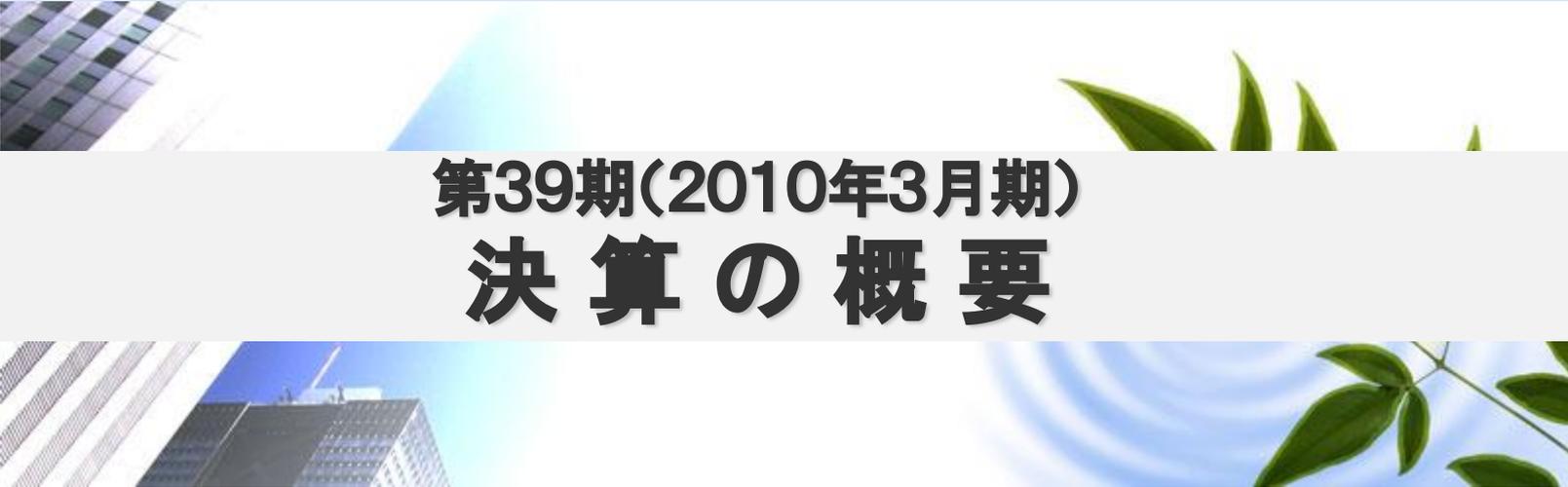
「デマンド交通システム」は、地元のタクシー会社や自治体の小型乗合自動車を利用して、利用者を自宅から目的地まで送迎するという予約型交通システムです。赤字路線バスに代わる新たな公共交通サービスとして評価を受け、また、路線バスのない過疎地はもちろん、都市部のコミュニティシステムとしても期待されています。



当社は、平成13年からNTTグループ各社をシステムインテグレータとして全国の自治体に納入してまいりましたが、平成22年1月には、累計50システム目を九州地方で初めて八女市に納入いたしました。



1月18日には、関係者や住民の皆さんの参加のもと、現地で記念式典が行われました。 6



第39期(2010年3月期)  
決算の概要



日本ラッド株式会社

# 2010年3月期 連結損益計算書



P/L (単位:百万円)	(08.4~09.3) 2009.3期実績 <small>(売上高比率)</small>		(09.4~10.3) 2010.3期実績 <small>(売上高比率)</small>		対前年同期(単位:百万円)	
					増減額	売上高比率 増減
<b>売上高</b>	<b>4,554</b>		<b>5,278</b>		<b>724</b>	
売上原価	3,618	(79.4%)	4,439	(84.1%)	821	↗
販管費	780	(17.1%)	823	(15.6%)	43	↘
<b>営業利益</b>	<b>155</b>	(3.4%)	<b>15</b>	(0.3%)	△140	↘
営業外損益	△56	(△1.2%)	8	(0.2%)	64	↗
<b>経常利益</b>	<b>99</b>	(2.2%)	<b>23</b>	(0.4%)	△76	↘
特別損益	0	(0.0%)	41	(0.8%)	41	↗
税金費用等	17	(0.4%)	94	(1.8%)	77	↗
少数株主損益	△3	(△0.1%)	△47	(△0.9%)	△44	↘
<b>当期純利益</b>	<b>85</b>	(1.9%)	<b>18</b>	(0.3%)	<b>△67</b>	↘

# 2010年3月期 連結貸借対照表およびキャッシュフロー計算書



BS(単位:百万円)	2009.3月期末	2010.3期末	増減
<b>流動資産</b>	<b>3,082</b>	<b>3,139</b>	<b>57</b> ↗
構成比	75.1%	73.8%	
<b>固定資産</b>	<b>1,023</b>	<b>1,112</b>	<b>89</b> ↗
構成比	24.9%	26.2%	
<b>流動負債</b>	<b>883</b>	<b>892</b>	<b>9</b> ↗
構成比	21.5%	21.0%	
<b>固定負債</b>	<b>1,352</b>	<b>1,534</b>	<b>182</b> ↗
構成比	32.9%	36.1%	
<b>純資産</b>	<b>1,870</b>	<b>1,824</b>	<b>△46</b> ↘
構成比	45.6%	42.9%	
<b>資産合計</b>	<b>4,106</b>	<b>4,252</b>	<b>146</b> ↗
CF(単位:百万円)	2009.3月期末	2010.3月期末	対前年差額
<b>営業活動</b>	<b>123</b>	<b>△311</b>	<b>△434</b> ↘
<b>投資活動</b>	<b>△124</b>	<b>△254</b>	<b>△130</b> ↘
<b>財務活動</b>	<b>236</b>	<b>339</b>	<b>103</b> ↗

## ■流動資産

- 現預金の減少   △228百万円
- 売掛債権の増加   239百万円

## ■固定資産

- 無形固定資産の増加   105百万円

## ■固定負債

- 長期借入金の増加   352百万円
- 社債償還の減少   △120百万円
- 退職引当金の減少   △58百万円

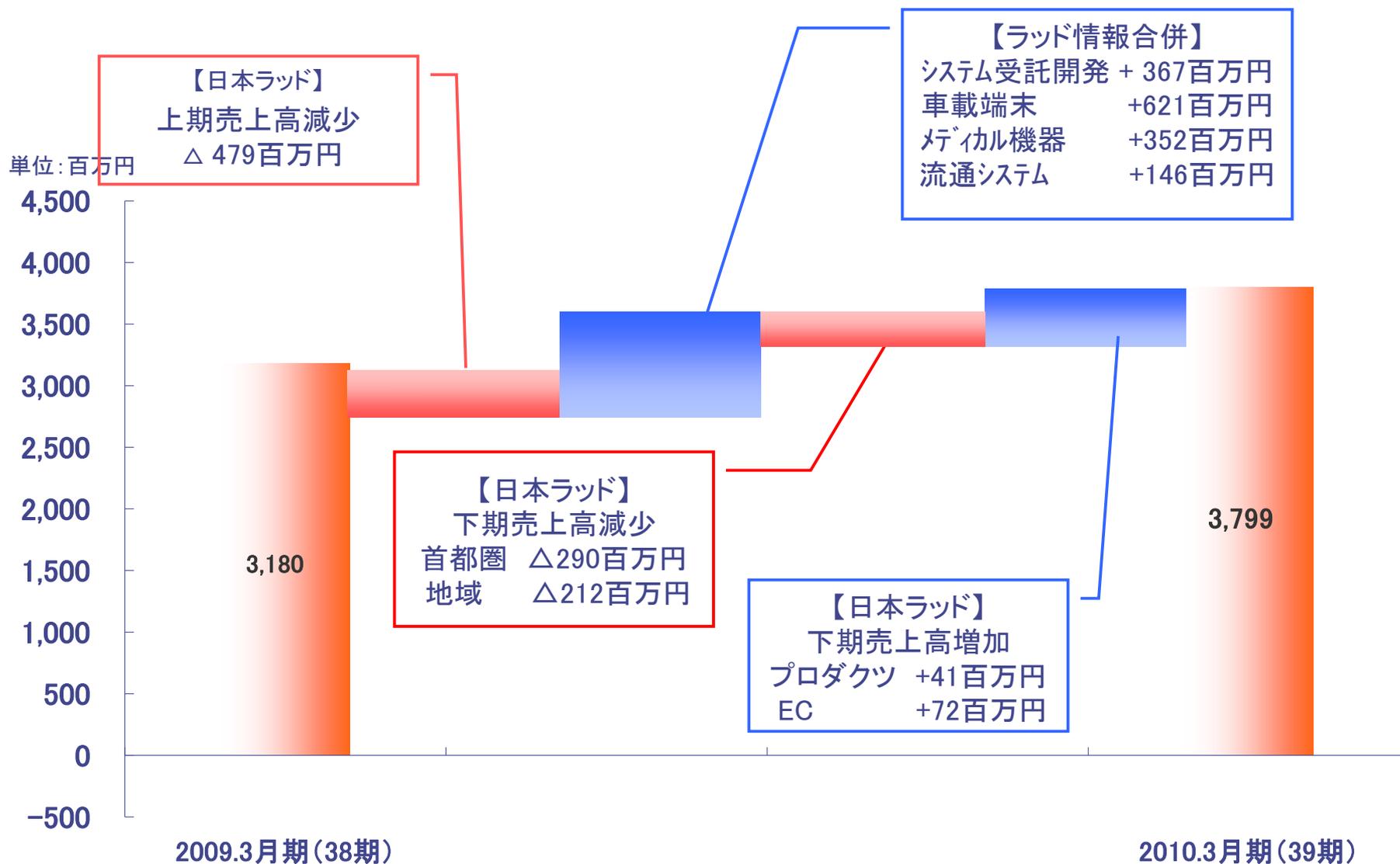
## ■投資活動CF

自社制作ソフトを含めた無形固定資産及び有形固定資産の支出143百万円、持合株式の取得による支出73百万円等より、前年比支出増。

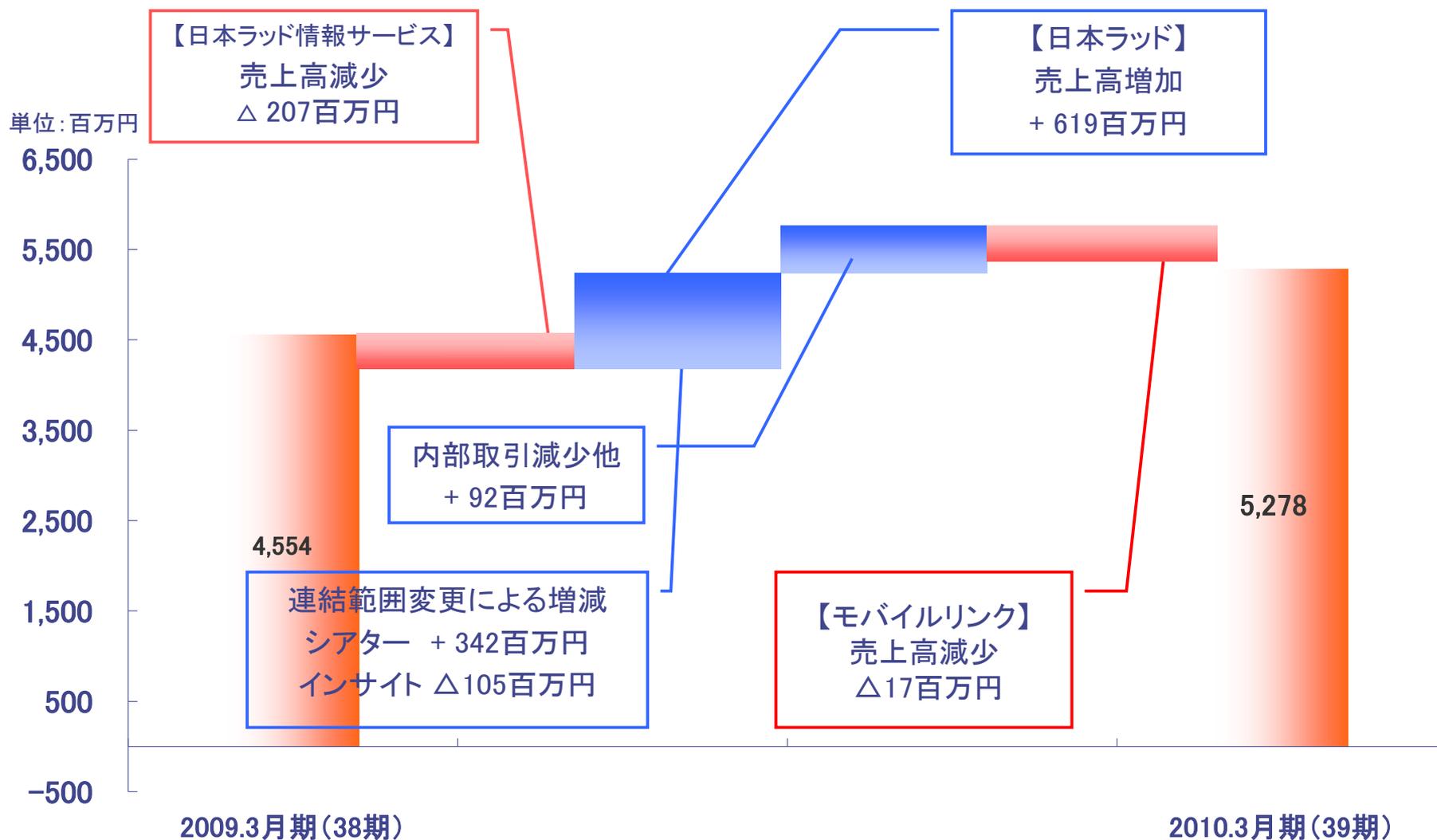
## ■財務活動CF

➢長期借入金の調達による収入450百万円、社債の償還120百万円等により、前年比収入増。

# 2010年3月期 個別売上高分析(対前年同期比)

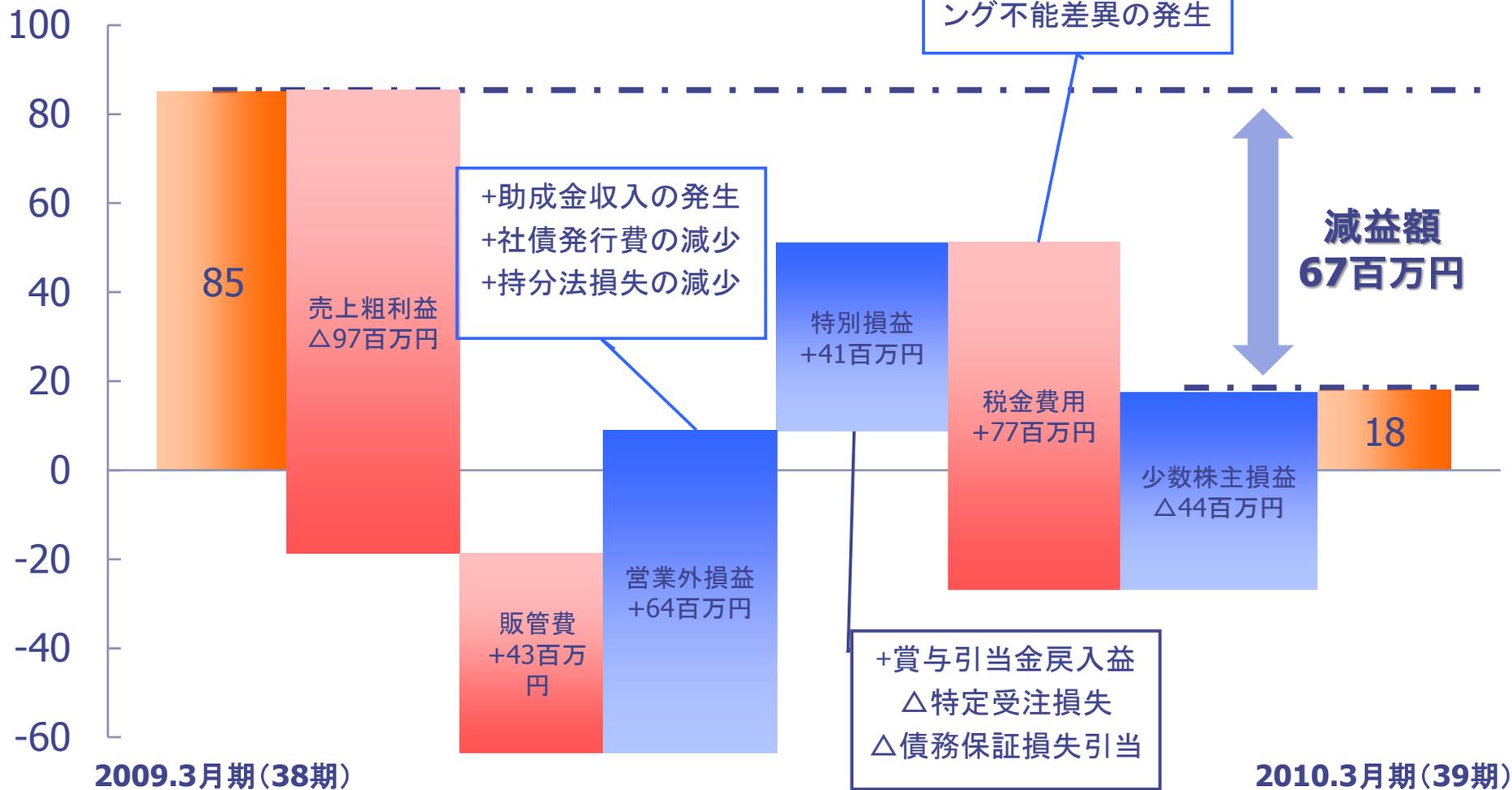


# 2010年3月期 連結売上高分析(対前年同期比)

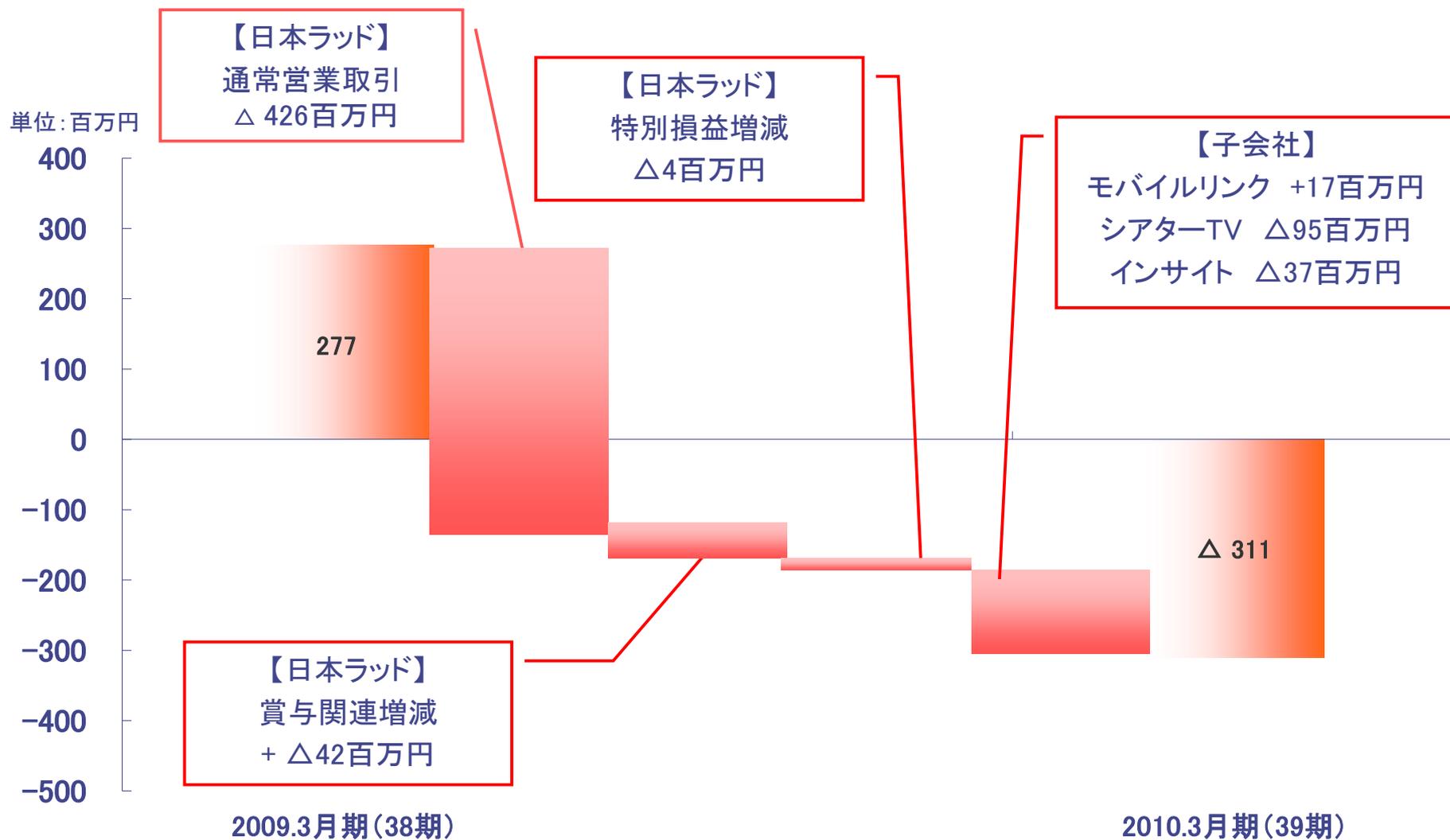


# 2010年3月期 連結当期純利益分析

単位:百万円



# 2010年3月期 連結営業CF分析



# 2010年3月期 連結営業CF分析(増減項目)



増加項目		減少項目	
仕入債務	210	<b>売上債権の増加</b>	<b>△795</b>
未払債務	24	棚卸資産の増加	△80
自社制作ソフト	130	賞与引当金戻入	△78
株式評価損	50	<b>合併による特益</b>	<b>△75</b>
減価償却費	42	インサイト	△37
賞与引当金繰入	36	<b>シアターTV</b>	<b>△95</b>
退職引当金繰入	38		
モバイルリンク	17		
その他	27		
合計	574	合計	△1,160

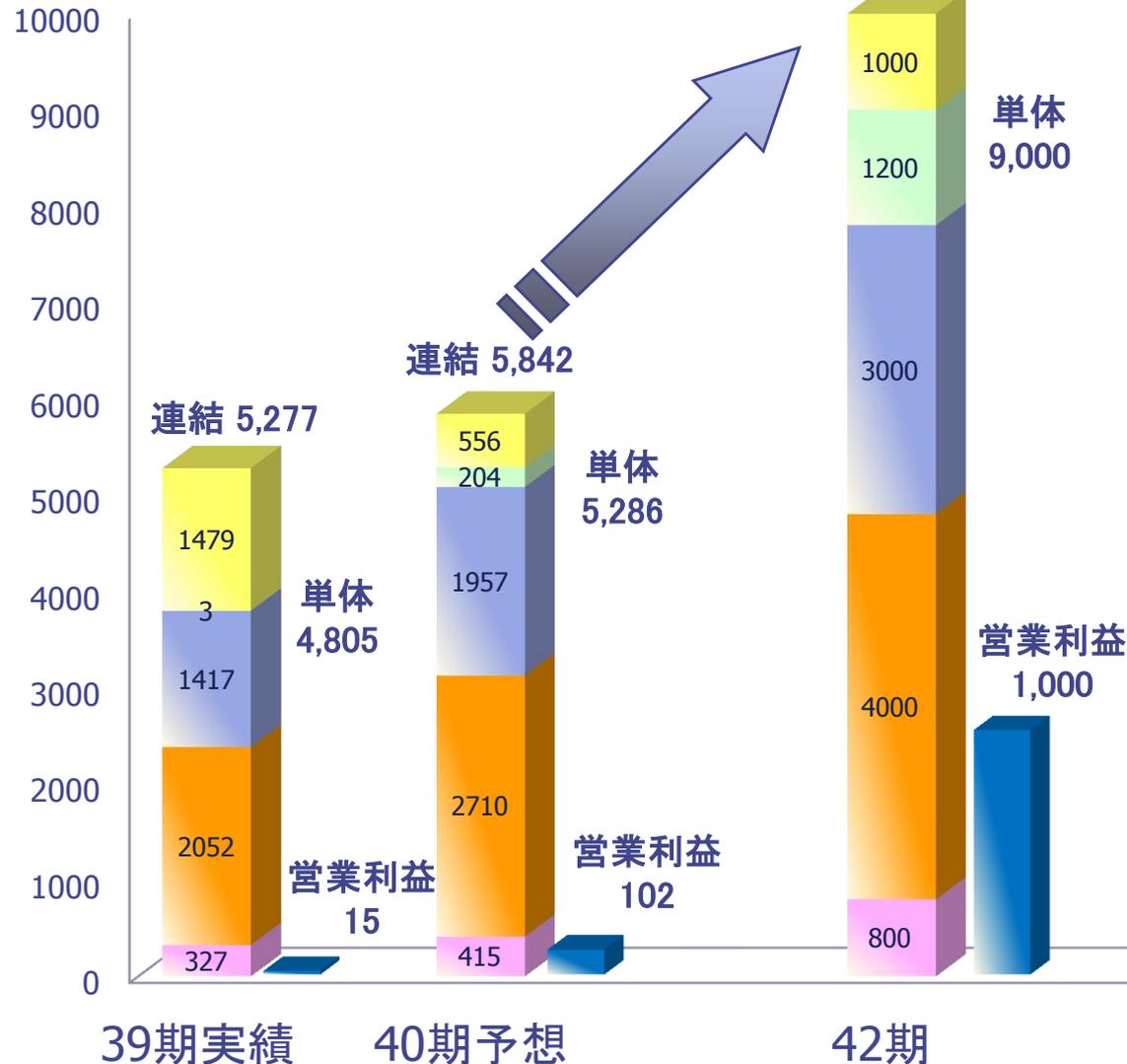
# 2011年3月期決算の見通し

連結 P/L (単位:百万円)	2011.3期			
	第2四半期 累計期間	対前年 増減率	通期	対前年 増減率
売上高	2,336	0.5% ↑	5,842	10.7% ↑
営業利益	-287	31.2% ↑	102	580.0% ↑
経常利益	-301	27.5% ↑	75	226.1% ↑
当期純利益	-262	23.6% ↑	57	216.7% ↑

単体 P/L (単位:百万円)	2011.3期			
	第2四半期 累計期間	対前年 増減率	通期	対前年 増減率
売上高	2,077	84.8% ↑	5,286	39.1% ↑
営業利益	-281	21.1% ↓	83	54.9% ↓
経常利益	-290	39.4% ↓	64	71.0% ↓
当期純利益	-248	1.2% ↑	56	69.4% ↓

# 3カ年計画

連結 10,000



- 連結子会社**  
 効率的なグループ経営と  
 子会社の収益力改善
- ネットワークコンピューティング事業**  
 省エネ・データセンタ技術の実証と拡大  
 圧倒的な価格競争力を持ったサービス  
 最新の高速・大容量データ伝送技術の提供
- システムソリューション事業**  
 ニッチな領域での  
 ハードウェア開発・販売の継続  
 社会基盤として定着したインターネットへの  
 新型端末の開発・販売
- ビジネスソリューション事業**  
 プロダクトをベースにした  
 基幹システムのソリューション提供  
 物流・医療など当社が競争力を有する  
 領域での販売強化
- プロダクトマーケティング事業**  
 当社技術を結集した  
 高品位プロダクトの開発・販売  
 アライアンス構築による  
 プロダクトラインナップ拡充



# 日本ラッド株式会社 NIPPON RAD INC.



日本ラッドは大和インベスターリレーションズ株式会社が発表した「インターネットIRサイトの優秀企業」に選定されました。

資料に関してのお問い合わせ先  
経営企画室 TEL03-5919-3001

<http://www.nippon-rad.co.jp/>

本資料は、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。  
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点で入手可能な情報に基づく当社の判断であり、  
その情報の正確性・完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後予告なしに変更することがあります。